

農業技術

プリズム



イチゴ炭そ病による苗の枯死

イチゴ炭そ病は株の萎凋（いちごう）・枯死を招くイチゴの最重要病害ですが、病害虫の発生状況を調査し、その後の発生量を予測する発生予察手法が確

イチゴ炭そ病発生予察 エタノール噴霧 有効性を検討

立されていないため、効率的・効果的な防除対策に苦慮しています。

そこで、本病の発生予察を最も正確に行える調査手法を確立するため、2010～14年度に

を検討しました。

その結果、本病のイチゴ苗での発病株は7月ごろから認められ、9月に急激に増加しました。一方、本法による潜在感染株は、発病株の急増期より早い梅雨時期の6～7月に急激に増加しました。

7月の潜在感染株率と9月の発病株率には高い相関関係が認められ、7月に潜在感染状況を調査することで、9月の発病を予測可能であることが明らかになりました。

実際には、病害虫防除所などの機関が7月上旬ごろに本法により潜在感染状況を調査し、7月下旬に情報を提供することにより、8～9月の防除喚起をすることになります。

長崎県では病害虫防除所が昨年からは本法による情報を提供しており、データを積み重ね、より精度の高い発生予察ができ、本病の防除対策に貢献することが期待されます。

（県農林技術開発センター環境研究部門病害虫研究室・寺本健）

茨城県、奈良県および福岡県と共同で農林水産省の「発生予察の手法検討委託事業」に取り組み、本病の潜在感染（菌は感染しているが、発病していない状態）状況を調査する方法としてエタノール噴霧検定法の有効性